

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近代の政治思想の特徴としては、依存することへの極度の恐怖を指摘することができるだろう。この場合、「依存 (dependence)」と対比されるのはもちろん、「自立 (independence)」である。

政治を担う市民は、自立した存在でなければならぬ。他者に依存したままでは、自らを律することもできないからである。それゆえ、人々が政治の領域に^aサンニユウするにあたって、まず確保しなければならないのは、他者への依存からの脱却である。このような考えが、近代政治思想史において繰り返し説かれてきた。

もちろん、他者の恣意的な意志に従属しないことをもって自由の本質とみなす伝統は、古代ギリシア・ローマ以来のものである。主人に従属する奴隷と対比されるのは、自由な市民である。そうだとすれば、自由な国家とは、他国の支配や自国の君主の恣意的な統治に屈することなく、市民が自らの国のあり方を決定できる国家であった。このような意味で、「個人の自由」と「国家の自由」が連続的に捉えられる伝統は、西洋政治思想史の一つの精神的背骨を形成してきた。

とはいえ、近代の政治思想においては、「依存」問題はもっぱら個人にフォーカスがあたることになる。そこで何よりも⁽¹⁾重視されたのは、個人が他の個人に依存しないことであった。個人の自由と国家の自由をつなげて理解する伝統はむしろスイ^bタイし、個人の自由それ自体が議論の中心となったのである。

政治社会を構築するにあたって、人々は所与の依存関係をすべて^cセイサンして、完全に自由で平等な諸個人となる必要がある。そのような諸個人の契約によって打ち立てられた国家だけが、正当なものとなるであろう。このように説く社会契約論は、個人の依存を嫌う近代の政治思想の代表的なものである。

依存への恐怖を強調した主たる思想家としては、やはり^(注)ジャン・ジャック・ルソー⁽²⁾をあげねばならない。『人間不平等起源論』において、ルソーは社会に存在する不平等がどこから生じたのかを探っている。その際に^dシウウテンとなったのが、やはり「依存」であった。

ルソーにいわせれば、自然状態において不平等は存在しなかった。なぜなら、そもそも人間の間に恒常的な^A的關係は一切存在せず、各人はそれぞれ自足した生活を送っていたからである。人間に備わっているのは、ただ自己保存の本能と、他者の痛みや苦しみにカン^eノウする憐れみの情だけであり、ある意味でそれだけで十分だった。

ところが、人間の間には、いつしか相互依存の關係が生まれてくる。この關係こそが、あらゆる悪徳の源泉であった。人は次第にこの關係なしに

は生きていけなくなり、やがて嫉妬や妬みの感情が人々を支配するようになる。⁽³⁾ 他人の [] 暮らす人々の関係はあたかも「鉄鎖」のようになり、やがて所有権の確立がこの「鉄鎖」を完成させた。

このように説くルソーにとって、依存は [B] 的には支配—服従関係につながるものであった。「従属のきずなというものは、人々の相互依存と彼ら結びつける相互の欲望とからでなければ形成されないのだから、ある人を服従させることは、あらかじめその人間を他の人間がいなくてはやっていけないような事情の下におかないかぎり不可能である」。

ここにあるのは、他の人間に依存することが従属につながる以上、そもそも他の人間を必要とすることそれ自体を悪とみなす思考である。しかし、人が他者に依存することはそれほど悪いものなのだろうか。

実をいえば、このような依存への恐怖は、現代の政治哲学においても幅広くみられるものである。一例としては、およそルソーとは異質な思想家と思われている^(注2) フリードリヒ・ハイエクがあげられる。『隷従への道』において社会主義の計画経済を批判したハイエクは、『自由の条件』においてさらに踏み込んで自由についての原理的考察を行っている。彼にとっての自由とは「強制的排除」であり、この場合、「強制」とは人を他者の恣意的な意志に従属させることであつた。

これに対しハイエクが掲げるのが「法の支配」である。ハイエクにとっての「法の支配」とは、諸個人が自らの行動を決定するにあたって、事前にあらかじめ一般的なルールが示されていることを意味する。重要なものは、⁽⁴⁾ 恣意的な立法権力によって時々ルール変更がなされないことであり、また特定の個人や集団を狙い撃ちした [C] 的立法が行われないことである。

ハイエクといえは、市場を絶対視する思想家というイメージが強い。とはいえ、実際にその著作を読んでもその印象はやや異なる。彼を突き動かしているのは⁽⁵⁾ 市場メカニズムへの信頼という以上に、他者の意志に従属することに対する忌避感である。他の個人の恣意的な意志に振り回されるくらいなら、形式的で一般的なルールに従う方がはるかにいい。もつとも悪いのは、他者の [X] 次第という状態に置かれることである。ハイエクが市場を評価したのも、それが非人格的なメカニズムであることによる部分が少なくなかったはずだ。

他者の恣意的な意志への従属を恐れているのは、ハイエクだけではない。新たな生活保障の構想として現在 [Y] を浴びている、いわゆる「ベリック・インカム（基礎所得保障）」論にしても、根底にあるのはやはり他者へ依存することへの恐怖ではなからうか。

この仕組みにおいては、国民の最低限度の生活を保障するため、一人ひとりの国民に直接現金が給付される。なぜこの仕組みが、[D] 的な生活保護や失業保険、医療補助や子育て扶助などの個別的な政策に比べ優れているかといえは、これらの制度に含まれる逆差別や不公正の可能性を排除できることに加え、現場レベルの行政担当者による恣意的運用を避けられるという点が大きい。

(6) その際、ポイントになっているのは、個別の制度にどれだけの不合理があるか、あるいは実際の運用にどれくらい問題があるかではない。少なくとも、それが主眼ではない。むしろ **E** 的なのは、全員一律の現金給付という仕組みには、他者の恣意的な判断が入り込む余地が一切ないように思われる点である。少なくとも、末端行政官による裁量の余地をすべて排除することが重要である。

ここにみられるのはやはり、他者の判断や裁量に依存することへの恐怖である。何よりも避けるべきは、特定の個人の意志に左右されることである。それと比べれば、非人格的で一般的なルールや制度に従うことは、はるかにましである。このような発想は、今日の多様な政治哲学的思考にも広く浸透しているのではなからうか。

(字野重規『民主主義のつくり方』筑摩書房による)

(注1) ジャン・ジャック・ルソー(一七二二～一七七八年)。フランスの啓蒙思想家、哲学者、作家。

(注2) フリードリヒ・ハイエク(一八九九年～一九九二年)。オーストリアの経済学者。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a || 1 b || 2 c || 3 d || 4 e || 5

- a サ | ニ ユ ウ
- 1 動議にサ | セイする。
 - 2 サ | ミが強い料理。
 - 3 弁当をジ | サ | ンする。
 - 4 川沿いにサ | ン | ザ | イする民家。
 - 5 女兒をシ | ュ | ッ | サ | ンする。

- b ス | イ | タイ
- 1 タ | イ | ロを断たれる。
 - 2 タ | イ | ゼンとかまえる。
 - 3 キ | タイ | を裏切る。
 - 4 犯人をタ | イ | ホする。
 - 5 道路がジ | ユ | ウ | タイ | する。

c
セイサン

- 1 明日の天気はカイセイだ。
- 2 エンジンセイに加入する。
- 3 エンジン隊に加入する。
- 4 セイヒンに甘んじる。
- 5 ハンセイを促す。

d
シヨウテン

- 1 事務レベルでセツシヨウする。
- 2 リンシヨウ医を育成する。
- 3 実験結果をケンシヨウする。
- 4 左右タイシヨウのデザイン。
- 5 シヨウソウにかられる。

e
カンノウ

- 1 ボンノウを捨てる。
- 2 環境にジュンノウする。
- 3 商品をノウニユウする。
- 4 ノウギヨウを営む。
- 5 果汁をノウシユクする。

問(二) 空欄 A E を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

- いけません。) A || 6 B || 7 C || 8 D || 9 E || 10

- 1 最終
- 2 伝統
- 3 社会
- 4 従属
- 5 個別
- 6 本質

問(三) 傍線部(1)「重視」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 支配・服従という依存関係に対する人間の恐怖を抑制するメカニズムであるから。
- 2 社会主義の計画経済に基づいた強制を排除できる、自由なメカニズムであるから。
- 3 諸個人が自らの行動を決定することを前提として、法が支配しているメカニズムであるから。
- 4 特定の人間の意志に左右されない、一般的なルールに従うメカニズムであるから。
- 5 特定の個人や集団を狙い撃ちしない、絶対的な力を持つメカニズムであるから。

問(八) 空欄 X・Y を補うのにふさわしい語を、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。 X || 16

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|
| X | 1 | 手ほどき | 2 | 腹具合 | 3 | さじ加減 | 4 | 根回し | 5 | 神頼み |
| Y | 1 | 喝采 | 2 | 視線 | 3 | 歓声 | 4 | 氣勢 | 5 | 脚光 |

Y || 17

問(九) 傍線部(6)「その際」の内容の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

- 1 他者の意志に従属することを忌避する際
- 2 「ベーシック・インカム」論とこれまでの個別的保障政策を比較する際
- 3 国民の最低限度の生活を保障する際
- 4 生活保護や失業保険、医療補助や子育て扶助などの政策を停止する際
- 5 現場レベルの行政担当者による恣意的運用を避ける際

問(十) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選びなさい。 19

- 1 他者への依存からの脱却という考え方は、古代ギリシア・ローマ以来の政治思想の中核的理念である。
- 2 近代の政治思想においては、「個人の自由」と「国家の自由」は全く別のものと考えられている。
- 3 近代の政治思想は、完全に自由で平等な諸個人の契約によって打ち立てられた国家を正当なものとする。
- 4 ルソーとハイエクの政治思想の違いは、市場メカニズムを絶対視するかしないかという点にある。

5 非人格的なルールや制度も、それに従わねばならないという点で支配・服従という依存関係を脱却できていない。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これは私と同年配の、もう八十歳に近い人の話になるが、幼い頃の遊び場と言え、狭い路地のようなところでなければ、お寺の^a境内だったとい
う。

下町の育ちの人である。小ぢんまりとした^甲巷のお寺で、境内もひろくはないが南へ向いていたので、とりわけ冬場には子供の溜まり場となつた。背中におぶつた赤ん坊をゆすりながら境内を歩きつ戻りつする老女の姿も見えた。お堂の裏手には墓地があつた。卒塔婆の先端がのぞく。春ともなれば墓地から⁽¹⁾陽炎が立つ。その光景が今になり^b懐かしく思い出される。陽炎の中で遊んでいたような気がする。すべて、空襲によって焼き払われた。

山の手のほうになるが、私も敗戦の直後の一時期、お寺の多い^{かいわい}界隈に暮らした。江戸期に市街地から「山」のほうへ越してきた寺院らしい。すでに古色蒼然としたお寺もあつたが、空襲に焼かれて新^c普請のお寺もあつた。

あちこちに焼け跡があつたので子供たちは遊び場に不自由はしなかつたが、興に乗れば町から町へと走りまわる。お寺の境内から墓地を、群れをなし歓声をあげて駆け抜ける。けしからん餓鬼どもである。その罰だが、墓地でしたたかに^d転んだことがある。その疵から高熱を出した。親は⁽²⁾眉をひそめていた。(イ)子供は^e懲りない。暮れ方に仲間と墓地を抜けて帰ってくることもあつた。

青年期までは引越しの多い人生だった。それが、三十歳の頃にもう一度越して、まだ飯の住まいのように思ううちに、いつしか五十年近く居ついたきり、現在に至る。

あたりに三箇寺ばかりあるが、どれも歩いては半時間近くかかる。ここに住まう間、作家としてさまざまに書いてきたが、^f通夜や葬式のこととは別にして、お寺が情景として出てきた作品は、一篇もないような気がする。明治や大正、昭和の初期までの先人たちの小説を読むと、お寺のある情景がよく出てくる。さりげなく描かれているが、読む私の眼はそこに留まる。

私の生まれる頃にはもう失われた情景らしいが、なにやら深い見覚えがある。私自身がそこに立って、つくづく眺めているような、そんな心地がしてくる。それにつけても、今の世で小説などを書くのは、なんと味気ないことか、と⁽³⁾つい溜め息ももれる。

お寺が近くにないことには、町がどうも町にならない、と思うこともある。

(中略)

お寺の鐘の音というものを、東京で生まれ育つた私は日常に聞いた覚えがない。(ロ)遠くにかすかに聞こえていたのを、忘れているのかもしれない。

れない。

戦争が本土に迫る頃に、寺々の鐘が軍需のために供出させられたと聞く。梵鐘が融かされて砲弾などに化したわけだ。たとえ供出をまぬがれたとしても、おおっぴらに鐘を撞くのははばかられたのだろう。

(4) 永井荷風が、昭和の十年の頃のことと思われるが、東京の鐘の音のことを随想の中に書いている。芝の増上寺から麻布の高台へ伝わってくる鐘の音らしい。二、三日荒れた木枯らしが、冬の日の暮れるとともにぱったりと止んだその静まりの中を、最初のひと撞きがコーンとはっきり耳についてきた、という。(ハ)、糠雨の雫が庭の若葉の、葉末から音もなく、滴る薄暗い昼過ぎに、鐘の音がいつもよりいっそう遠く、柔らかに聞こえてくる、とある。さらにまた、秋も末に近く、ひと宵ごとに力を増すような西風に、とぎれて聞こえてくる鐘の声の、寂寥感を荷風は嘯みしめている様子である。それにつけても、我が身に迫る老いと、戦乱へ傾く世の移りとを感じさせられたらしい。そして随想の結びは、

—— たまたま鐘の声を耳にする時、わたくしは何の理由もなく、むかしの人々と同じやうな心持で、鐘の声を聴く最後の一人ではないかといふやうな心細い気がしてならない……。

昭和十一年、荷風の五十七歳の作品である。その翌年に私は生まれている。そのわずか八年後の昭和二十年に、荷風の麻布の住まいも、郊外の私の家も、空襲で焼き払われた。あるいは、近頃しきりに鐘の音が耳につくようになった荷風の感慨の内には、東京の炎上の予感がふくまれていたのかもしれない。

私にとってはしよせん、知らぬ鐘の音である。それなのに、冬の冴えた空気にくつきりと響く、あるいは初夏の小雨の中にやわらかにふくらむ、あるいは晩秋の風にとぎれがちに運ばれてくる、そんな遠い鐘の音へ、私もつくづく耳をやったことがあるやうな気がする。

往古の歌集を読むうちに、鐘の音を詠みこんだ歌に出会すと、いままがた聞こえたかのように、遠くへ耳をやることがある。(1) 千年もの時空を渡ってくる鐘の音ということになるか。花の頃の、霞を洩れる鐘の音、という。恍惚感を誘う。(注) 入相の鐘をつくづく、今日もこうして過ぎたかと聞く。寝覚めに聞く鐘、これには年を取るほどに身につまされる。(2) しかし何かと事にまぎれる人生にあって、我に返った心地もするのではないか。

—— 諸行無常の鐘の声 聞いて驚く人もなし

そんな歌謡が近世にはあったそうだ。(5) これが世の人の常であろう。しかしひとつの寺の鐘を、その声の渡る範囲の里や街の人が揃って耳にする。聞くともなく聞く。それだけでも功德ではなかったか。ほんのつかのまの、意識にもならぬ、悟りというものはある。悟りとまでは行かなくても、しばしのあらたまりはあるだろう。(3) 諸行無常の声は、哀しみではあるが、人生に行き詰まった者には、救いでもあるはずだ。

今の世の寺院は朝夕に鐘を撞くわけにもいかないだろう。山寺でもないかぎり、やかましいとの苦情が近隣から出ると思われる。(二)夜中や夜明けに鐘を鳴らせば、寝覚めがちの高年者から、あの音を聞いていると、わびしくてしかたがない、と泣きつかれるかもしれない。

西洋の旅の宿で私も幾度となく、街の教会の鳴らす夜の時鐘に眠りを破られた。あれはわびしいものだ。梵鐘のような幽玄な音色にとほしいので、なおさらのことだ。しかし鐘の音の残りを数えるうちに、「柄にもなく、来し方行く末を思わせられる。(4)自身じの過去よりさかのぼる来し方のように、そして自分の生涯をも超える行く末のように、しばしば感ずる境はある。いまこの鐘の声を、何人もの、見知らぬ人たちが寝覚めて聞いているのだろうかと思えば、わびしさもやすらぐ。

——明るあるやら西も東も鐘の声 野水

芭蕉七部集の、連句の内に見える。

「明るやら」とあるのは、未明に寝覚めして物を思ううちに、鐘の音が聞こえてきて、夜の白々と明け染めたのを知ることだろう。鐘の音へ耳をやる人物は、その前の句に「盗人の妻」とあるから、あわれである。「明るやら」というつぶやきも、女人の唇を思わせる。(5)そして「西も東も鐘の声」とは、昔の市街は、あるいは里も、そんな暮らしたのたのただろう。

朝夕の鐘の音も聞かぬ現代の大都市に住まう者として、うらやましい気がする。今でも鐘の音を聞いて暮らす土地があるなら、いよいようらやましい。

しかし今の世に寺院というものがあるからには、音にならなくても鐘の声は、おのずとある、とそう思いたい。寺院そのものが、鐘の声ではないか。(6) () を告げるばかりではない。来世のことはさて置き、過去の衆生の存在を、今の衆生に感じさせる。過去の衆生の重みが掛かったほうが、根から浮きがちの今の人間は、生きやすいのかもしれない。

(古井由吉『書く、読む、生きる』草思社による)

(注) 入相いりさう 夕暮れ。

問(一) 傍線部 a ~ j の漢字の読みが間違っているものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | |
|----|---------------|-------------|--------------|
| i | 1 a 「境内」 けいだい | 2 b 「懐」 なつ | 3 c 「普請」 ふせい |
| 4 | d 「転」 こころ | 5 e 「懲」 こ | |
| ii | 1 f 「通夜」 つや | 2 g 「滴」 こぼれ | 3 h 「柔」 やわ |

i || 1

ii || 2

- 4 i 「幽玄」 〓 ゆうげん 5 j 「柄」 〓 がら

問(二) 空欄 (イ) () (ニ) を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)

- 1 あるいは 2 たとえば 3 しかし 4 まして 5 さらに
- イ 〓 **3** ロ 〓 **4** ハ 〓 **5** ニ 〓 **6**

問(三) 傍線部甲「巷」、乙「糠雨」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

甲 〓 **7** 乙 〓 **8**

甲「巷」

- 1 畑中 2 街中 3 田舎 4 港町 5 郊外

乙「糠雨」

- 1 にわか雨 2 激しい雨 3 通り雨 4 冷たい雨 5 細かい雨

問(四) 傍線部(1)「陽炎」の読みは二字で「かげろう」と訓読みする熟字訓です。これと同じ熟字訓で読む熟語を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 為替 2 仏間 3 建具 4 惑溺 5 隙間
- 9**

問(五) 傍線部(2)「眉をひそめていた」とはここではどのような様子を言いますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 高熱を出すような大怪我をしてまで遊びにふけるわが子を持てあます様子
- 2 わが子の疵と高熱が心配でならず、かいがいしく看病につとめている様子
- 3 転んで怪我をするほどに外で元気に遊び回るわが子を頼もしく眺める様子
- 4 わが子の病状を案じながらも、その腕白ぶりに手を焼き、機嫌の悪い様子
- 5 大声を上げて走り回ることしか遊びがないわが子を不憫に思う様子

問(六) 傍線部(3)「つい溜め息ももれる」とありますが、その理由の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 先人たちのすぐれた小説を読むと、お寺のある情景が髣髴ほうふつとしてくるから。
- 2 今の世ではお寺と言っても、通夜や葬式のことしか思い浮かばないから。
- 3 お寺のある情景の中で生きることがなくなり、寺の風情をさりげなく描けないから。
- 4 昭和初期までの先人たちの小説に比べて、現代の小説は見劣りがするから。
- 5 住まいの周囲には三箇寺もあるのに、一度も小説に描いたことがないから。

問(七) 傍線部(4)「永井荷風」と同じ耽美派に分類される小説家を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 谷崎潤一郎
- 2 志賀直哉
- 3 夏目漱石
- 4 太宰治
- 5 島崎藤村

問(八) 傍線部(5)「これ」が指示する歌謡の内容としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- 1 お寺の鐘の音などいつも聞き慣れていて、驚く者は誰もいないということ
- 2 お寺の鐘の音を聞くと、この世の無常を思わずにはいられないということ
- 3 お寺の鐘の音はやかましいので、できるなら撞かないでほしいということ

- 4 お寺の鐘の音を聞いてもこの世の無常に思いをいたす人はいないということ
- 5 お寺の鐘の音に無常を悟ることはなくても、心は改まるものだということ

問(九) 傍線部(6)「()」を告げるばかりではない」の空欄()を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

なさい。 14

- 1 功德
- 2 諸行無常
- 3 来し方行く末
- 4 寢覚め
- 5 鐘の音

問(十) 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

くしなさい。 15

わびしい。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十一) 本文の標題としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- 1 下町育ち
- 2 東西の鐘
- 3 お寺の境内
- 4 荷風の感慨
- 5 鐘の声

問(十二) 筆者の考えと合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- 1 お寺の境内を幼いころの遊び場としていた者にとっても、鐘の音は特別な感慨をもたらすものではなく、時を知らせるものでしかない。
- 2 お寺の鐘の音は諸行無常に気づかせてくれる点で、たんに時を知らせるにすぎない西洋の教会の鐘の音よりも情趣があり、味わい深い。
- 3 寢覚めがちの高齢者にとっては夜中や夜明けの鐘の音を聞いているとわびしくてならないので、撞かないでもらえるとありがたい。
- 4 お寺が出てくる情景を描いた先人たちの小説を読むと、子どものころお寺の境内で遊んだ記憶が鮮明に蘇ってきて懐かしいかぎりである。
- 5 現代人が好ましく感じない朝夕の鐘の音であるが、過去に生きた人びとに思いをいたし生の安らぎを実感する契機になるかもしれない。

設問は以上です。